

連載第2回 男女共同参画社会の実現

分かち合う仕事も家庭も喜びも

前月号では、「男女共同参画社会」の実現のため「仕事と生活の調和」が重要であることについて紹介しました。今月号では、地域の課題や、そこに住む人々が抱えている課題を解決するため、男女共同参画による視点から地域づくりが求められていることについて紹介します。

男女共同参画による地域づくり

地域を活性化するためには、いかに多くの主体団体を巻き込んでいけるかが重要であると言われています。国では、男女共同参画社会基本法に基づき、平成17年に決定した、男女共同参画基本計画（第2次）において、「男女共同参画によるこれからの地域づくり」を重点事項の一つであるとしています。

これは、地域やそこに住む人々が抱える課題の解決には、新たな視点や発想を生み出し、つながりたりするなどの理由から、男女が共に考え、協力することが、これからの社会では、ますます重要になってくるということです。

市でも男女共同参画社会の実現を目指し「登米市男女共同参画基本計画」を平成19年

2月に策定し、男女が共に地域づくりに参加できる取り組みを進めることとしています。

しかし、現状は、地域づくりへの参加は、男性も女性もまだまだ低い状況にあります。その理由には、長時間の労働などにより仕事と生活の調和が取れないため、地域活動にかかわる時間が取れないことや、今なお根強い性別による固定的役割の概念によって活動に積極的にかかわれないことなどが挙げられています。

今、地域に求められている取り組み

男女が共に、主体的に地域づくりを進めるためには、一人一人が働き方への考えを変えてみる  
●「社会的性別」(ジェンダー)の視点を持つ  
など、仕事と生活の調和の実現や、「男の仕事」や「女の役目」など、性別による固定



教育資料館ライトアップ



全国はっとフェスティバル

大盛況でした！「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」

「美味し国 伊達な旅」と題して、昨年10月から12月まで「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)」が宮城県で開催されました。

この期間中、市では「北上川の舟下り体験」や「教育資料館のライトアップ」、「横山不動尊秘仏の特別御開帳」、「全国はっとフェスティバル」など多くのイベントが催され、JRびゅうバスの運行なども併せて、大勢の観光客の皆さんに登米市に足を運んでいただきました。

また、市を訪れる観光客への「おもてなし研修会」の実施や「観光ボランティアガイド」の育成など、DCを契機にして市内各団体でさまざまな取り組みが行われ、観光資源の掘り起こしや観光客の受け入れ体制の整備が行われました。

「仙台・宮城DC」は12月で終了しましたが、このキャンペーンを一過性のもので終わらせないために、県ではDCで培った体制や事業を引き継ぎ、平成21・22年度の2カ年間「ポスト仙台・宮城DC」の実施を計画しています。市でもDCの成果を踏まえて関係団体と連携し、引き続き観光客の誘客を進めていく予定です。

【問い合わせ】 産業経済部商工観光課 観光物産係 ☎0220 (34) 2734



- 【男子シングルス】 第1位 千葉隆一(登米) 第2位 佐藤裕(登米) 第3位 菅原弥(川面) 及川雅史(川面)
【女子シングルス】 第1位 辺見美月(登米) 第2位 藤浦瞳(南方) 第3位 只野幸恵(登米) 千葉菜亜莉(中田)
【男子ダブルス】 第1位 及川雅史・菅原弥(川面) 第2位 酒井一・猪又寿弘(登米) 第3位 北條敏治・佐藤勤(登米) 佐藤裕・千葉隆一(登米)

- 【小学生男子シングルス】 第1位 加藤周一郎(米山卓協) 第2位 後藤玲央(東和)
【小学生女子シングルス】 第1位 千葉まりの(南方) 第2位 秋葉つぐみ(東和) 第3位 細浦つくし(佐沼)
【シニア男子シングルス】 第1位 大崎真治(志津川高教員) 第2位 北條敏治(登米) 第3位 藤浦秀敏(登米) 小野寺智之(登米)
【シニア女子シングルス】 第1位 岩井英一(たんぼぼ) 第2位 高橋和郎(追フェ) 第3位 杉田功(ライジ和) 佐藤政則(石森卓球愛好会)

防災ミニ情報 ⑤ 油タンクには 流出防止措置を 寒さも本番を迎え、暖房に使用する灯油の消費が増える時期となりました。その灯油などを保管しておく油タンクが、地震や事故などで転倒して油が流出した場合は、火災を発生・拡大させる大きな要因ともなります。また、河川などに流入すると、環境を汚染するばかりでなく処理費用は原因者負担となり、高額の出費となります。事故が起きてから慌てないためにも、油タンクは堅固な基礎固定と流出防止の措置をしておきましょう。 転倒防止措置についてのご相談は、消防本部までお問い合わせください。 【問い合わせ】 消防本部予防課 ☎0220(22)1900

カエル! ジャパン Change! JPN 「カエル! ジャパン」 「会議の開始時刻や、持ち方をみんなが参加しやすい方法に変えてみる」など、地域の活動の仕方方を何か一つ、今日から変えてみませんか?

「社会的性別」(ジェンダー)とは 人間には生まれついで性別が「男性」か「女性」かという「生物学的性別」があるほか、社会通念や慣習によって作り上げられた男性像(男らしく)や女性像(女らしく)などの「社会的性別」(ジェンダー)があります。 社会的性別は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。 社会的性別の視点を持つということは、性差別や性別による固定的役割分担、偏見などが社会的に作られたものであることを意識し、「男(女)だから」という意識を変えて物事を見たり考えたりしていくということになります。

市民がつくる「地域のまちづくり計画」 市では、地域を活性化し住みよい暮らしの実現を目指し、地域の住民が主体となつて取り組む、市民がつくる「地域のまちづくり計画」の策定を支援することとしています。 これは、地域の住民が、結び付きを深めながら地域の魅力や課題などを話し合い、その解決方法や行動計画など、地域の将来像をまとめるものです。 現在、モデル地区として指定されている3地区で、地域のまちづくり計画の作成作業が進められています。この地域のまちづくり計画については、多くの市民の参加による作成を目指し、多くの女性や若者がかかわるよう働きかけていきます。

【問い合わせ】 企画部市民活動支援課 ☎0220(22)2173

地域の課題について話し合う皆さん